

3 造船業・船用工業対策等

(1) 人材の育成

造船・船用工業界においては、団塊世代の大量退職や若手従業員の定着率悪化などにより、“ものづくり”の現場における技術・技能者不足が深刻化しており、人材確保・育成、技能の継承が重大かつ喫緊の課題となっている。

(ア) 地域造船技能研修センターへの支援等

造船技能者育成のため、平成16年から地域造船技能研修センターが全国で6カ所設立された。管内では、平成20年3月に「相生技能研修センター」が設立され、新人向けの知識・技能や専門技能の教育の場として重要な役割を果たしている。

なお、平成26年度に実施した同技能研修センターにおける研修は以下のとおりである。

- ・ 平成26年4月～6月 新人研修 (3社6名)
- ・ 平成26年6月～8月 機関仕上げ(2・3級) (9社10名) (以下は専門技能研修)
- ・ 平成26年 9月 塗装(2級) (4社4名)
- ・ 平成26年10月 溶接(2・3級) (6社6名)
- ・ 平成26年12月 船殻組立(2級) (4社5名)

神戸運輸監理部では、引き続き同技能研修センターに対し、地域の造船技能研修センターとしての運営、機能強化・拡充等に向けた支援を続けている。

(イ) 船用工業における人材確保・育成

a) (一社)日本船用工業会、及び神戸大学との連携事業

神戸大学在学学生を対象に、兵庫県内を中心に西日本地区の造船・船用関連企業が取り組み等のPRを目的とした業界説明会を、神戸大学において毎年1回実施している。平成26年度は7月に実施され、26社が参加した。

b) 神戸船用工業会、(一社)兵庫県小型船舶工業会との連携事業

当該会員企業で働く採用後2年程度の若手社員を対象に、新人研修会を毎年1回実施している。平成26年度は11月に実施され、午前中は神戸運輸監理部による座学、午後は停泊中の航海訓練所練習船「青雲丸」において現場実習を行い、8社14名が参加した。

本研修を通して、参加者自身が刺激を受けるだけでなく、同年代の人々と交わることは将来的な人脈形成に繋がるため、業界の発展に大変意義深いものと考えている。

c) 県内工業高校との連携事業

造船・船用工業界の次世代人材育成のため、“産” “学” “官” が連携して、技術者が県内の工業高校に赴き、現場の最新技術を伝える特別授業を継続的に行っている。平成26年度は、マリンエキスパート表彰受賞者“溶接の匠”による本格的な実技授業を兵庫県立尼崎工業高等学校生徒12名に対し実施した。これらを含め、工業高校生徒・教員を対象とした出前授業・研修見学会を下記のとおり実施した。

(生徒対象)

- ・平成26年 8月 (独)海技教育機構海技大学校練習船「海技丸」体験乗船
(生徒9名 教員4名参加)
- ・平成26年10月 兵庫県立豊岡総合高等学校 出前授業 (生徒115名参加)
- ・平成26年12月 兵庫県立尼崎工業高等学校 溶接技術授業 (生徒 12名参加)

(教員対象)

- ・平成26年 8月 岡本鉄工(資) 研修見学 (15名参加)
- ・平成26年 8月 金川造船(株) 研修見学 (17名参加)
- ・平成26年10月 川崎重工業(株) 神戸工場「進水式」見学 (11名参加)
- ・平成26年10月 (独)海技教育機構海技大学校 施設見学 (8名参加)
- ・平成26年11月 (株)平原精機工業 施設見学 (3名参加)

※(株)平原精機工業については、神戸船用工業会主催、会員企業対象の施設見学

生徒対象の特別授業・出前授業等により、ものづくりの技術・技能の継承や人材確保・育成へ、また、教員対象の研修見学会等により、優れた製品を生産・販売し、社会に貢献する地元企業への理解を深めると共に、最新の知識・技術の習得に繋がることが期待される。

(2) 造船業における労働災害防止指導

造船所における労働災害事故防止のため、昭和58年5月から、造船事業者等が「全国造船安全衛生対策推進本部」を設置している。神戸運輸監理部では、同本部の西日本総支部兵庫支部の幹事会に参加するほか、同支部が行う安全衛生相互点検パトロール等に同行するなどの支援、協力を行っている。平成26年度は9事業所を関係者とともに点検し、指導した。